



I-OWA マンスリー・セミナー講演より さあ、どうする！ 50 歳

講演：岡本 和久

レポーター：赤堀 薫里

今の時代、リスク管理の一環として、100 歳まで生きることを前提に考えることが大事である。100 歳まで生きるとすればちょうどその半分为 50 歳。また、30 代半ばから 60 代半ばを働きの時代と捉えると、50 歳はちょうどその半分。今回はあらゆる面で重要なタイミングである 50 代前後に的を絞ってその課題について取り上げる。

多くの 50 代の人々にとって退職後の不安感は一時的ではなく漠然としている。退職後の最大のリスクは、生活の質が大幅に下がること。つまり、「Quality of Life (QOL)」がキーワードになってくる。お金の量やモノの量というよりも、むしろ質が下がってしまう、そこが最大のリスクである。QOL を下げずに、働きの時代から遊びの時代へ移行した時、遊びの時代を、いかに心も含めて豊かに過ごしていくのかということがポイントなのだ。

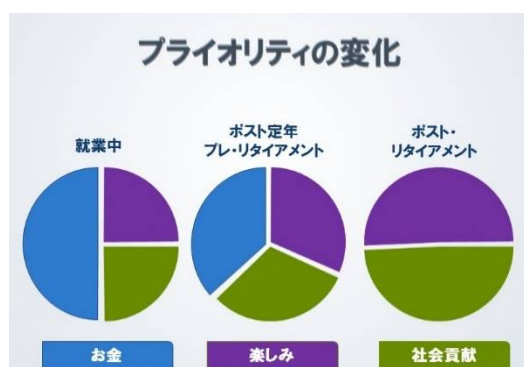
50 代は現実を直視する時期。「今、あるものが現実的にどれくらい増やせるのか」また、「今後 10 年～15 年、働く中で何ができるのか」と現実的なものを見極める時期なのだ。よく定年退職と言われるが、50 歳の時点で就業中の場合、定年まで 15 年位残っている。定年とリタイアメントは混同されがちだが、分けて考えるべき。「定年」というのは、終身雇用という制度の中で、年を定めてその歳になったら仕事を辞めてもらうもの。リタイアメントは、経済的基盤がある程度、出来あがり、これ以上働く必要が無くなった時に働くのをやめること。ここに違いがある。定年イコール・リタイアメントの人もいるかもしれないが、一般の人は、定年を過ぎても 10 年位は何らかの形で働き、少しは収入を得ていく。その後リタイアメントの時代となり、もし 100 歳まで生きれば、その後 25 年生きることになる。50 歳を整理すると、定年まで 15 年就業→プレリタイアメントの期間が 10 年→100 歳まで生きればポスト・リタイアメントの期間が 25 年となり、かなり長期的なプランが必要になってくる。

定年前・プレリタイアメントとリタイアメントではプライオリティーが変化してくる。本来仕事は、社会のためになることをして、自分自身、楽しみながらお金を得るものである。重要性で言えば、就業



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

中は、やはりお金の比重が大きくなるが、そこに楽しみと社会貢献の要素が入ってくる。プレリタイアメントの時代は、お金はそうそう稼げるわけではないので、お金の比重は減り、楽しみや社会貢献の比重が増え、ほぼ同じくらいの比重になってくる。リタイアメントの時代は、お金の要素が無くなるので、楽しみと社会貢献だけになる。つまり、遊びの時代となる。実はこの時代に何をしていくのかが非常に重要なことである。



50歳で何をするのか。1つ目は将来の収入源を見つけておく。2つ目は時間と交友関係への投資を怠らないことが重要。3つ目は病気にならない健康投資。最後は、資金を増やす。これは、一か八かではなく、無理なく如何に安定的に増やせる範囲で増やし、無理なく増やした金額の中で、出来るだけ楽しく生きていく方法を探すことが重要だ。

将来の収入源を見つけるということは、要するに将来の働き口を見つけること。三つの方法があるだろう。1つは継続雇用。立場は少し変わるけれど従来の会社で働く。2つ目は新しい会社へ転職、3番目は起業。それぞれ難しい面がある。継続雇用の場合、周りから煙たがられる。転職の場合は、過去の栄光にも頼れず肩身が狭い。起業も簡単ではない。いずれにしても、定年後リタイアメントする期間までに一番大切なことは覚悟。ポスト定年・プレリタイアメントの期間に、ある程度の資金や収入を得ていくことに相当の覚悟が必要である。

その後、講演では、起業で成功する為の条件や、誰とどう時を過ごすのか。時間というアセットアロケーションを考えていくことの重要性。また病気にならない健康投資の方法。最後にお金の問題として、固定費の削減、買い物5原則、資産を増やす方法や、50代の資産運用、そして60代になっただけですべきことを解説くださいました。